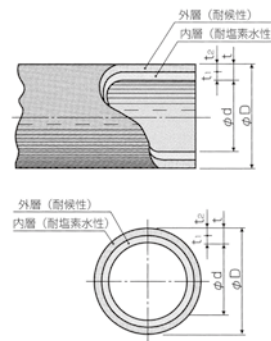
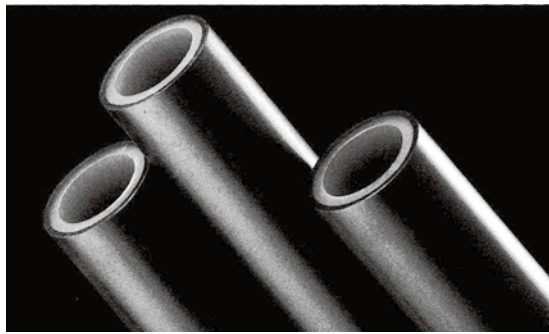


二層管構造により優れた耐塩素性・耐候性を実現



■最大常用圧:最大常用圧は常温において0.75Mpa {7.6kgf/cm²} 以下とする。

■サイズ

単位:mm

呼び径	価格	外径(1) (D)	厚さ (t)	外層厚さ (t2)	長さ(2) (m)	参考			
						内層厚さ (t1)	内径 (d)	質量(3) (kg/m)	コイル巻径(cm) 内径 相当外径
13	25,420	21.5±0.15	3.5±0.30	1.5±0.3	30 120	2.0	14.5	0.184	40以上 約80以上
20	37,150	27.0±0.15	4.0±0.30	1.5±0.3		2.5	19.0	0.269	50以上 約90以上
25	43,820	34.0±0.20	5.0±0.35	1.5±0.3	30 90	3.5	24.0	0.423	70以上 約110以上
30	61,580	42.0±0.20	5.6±0.40	2.0±0.4	90	3.6	30.8	0.595	80以上 約120以上
40	54,400	48.0±0.25	6.5±0.45	2.0±0.4	60	4.5	35.0	0.788	90以上 約130以上
50	55,940	60.0±0.30	8.0±0.55	2.0±0.4	40	6.0	44.0	1.216	110以上 約150以上

注(1)外径寸法は平均外径寸法とする。注(2)長さの許容誤差は+2.0%とする。

注(3)質量は密度を0.930g/cm³として計算したものである。

※「ポリニクス二層管」は、(株)クボタケミックス、クレハ エクステック(株)、日本プラスチック工業(株)の3社の統一ブランドです。

“クボタケミックス水道用ポリエチレン二層管使用時用の注意事項”

1. 用途
 - 1.1 この管は、水道用で使用圧力0.75MPa(0.76kgf/cm²)以下の管として設計されています。それ以外の流体輸送にご使用の場合は、メーカーにお問い合わせ下さい。
2. 運搬上の注意
 - 2.1 管は傷つき易いので、放り投げたり、引きずったりしないで下さい。管に傷がつくと所定圧力以下で破壊したり、管寿命が短くなります。
 - 2.2 車での運搬の際、荷台などの角に管が直接当たらないように保護し、輸送中に擦り傷などが発生しないように管をしっかり固定して下さい。
3. 保管上の注意
 - 3.1 保管は平面上に横積みの場合、積み高さ1.5m以下として下さい。また、荷崩れが起きないような処置をとって下さい。
 - 3.2 枕木など管に局部荷重がかかるような保管はしないでください。
 - 3.3 保管されている管の付近で火気使用は行わないで下さい。火災の危険があるばかりでなく、管の変形や材質の劣化を起こします。
 - 3.4 管を保管する場合、必ず管端キャップをしてください。二層管の外層は、耐候性に優れていますが、内層は、直射日光が当たると材質が劣化するおそれがあります。管端キャップが外れていた場合、管端部を約10cm切り取ってからご使用ください。
4. 施工上の注意
 - 4.1 生曲げ配管をする場合、1種で管径の20倍、2種で30倍以上の曲げ半径を取ってください。最小曲げ半径以下で施工すると材質の劣化により管寿命が短くなります。
 - 4.2 管をバーナーやトーチランプ等の炎を直接当てて曲げ加工しないで下さい。火災の危険があるばかりでなく、管の変形や材質の劣化を起こします。
 - 4.3 管の埋め戻しには、石やコンクリート破片などが含まれない良質土を用いて下さい。
 - 4.4 他の埋設物(管、構造物、基礎地盤など)との間隔は、30cm以上空けてください。
 - 4.5 栓、機器類金属配管と接続する場合、先に継手を接合し管にねじれ等を与えないようにしてください。
 - 4.6 露出配管の場合、管が伸縮するので蛇行配管を行い、たわみ代を多く取っておくことが必要です。たわみ代がないと管の収縮により接合部が抜けることがあります。
 - 4.7 架空配管の支持間隔は「水道用ポリエチレン二層管技術資料」による距離以下とし十分にたわみ代を取ってください。また支持部は、平面で受け、支持止めネジは強く締め付けないようにしてください。
 - 4.8 スクイズオフ工法を行う場合、締め幅は、管厚の1.4倍以下にはしないで下さい。締め付けすぎると管に無理な力がかかり管が損傷します。
5. 保守・管理上の注意
 - 5.1 配管経路でガソリン・灯油・有機溶剤などにより土壌汚染が予想される場所は、迂回配管等により管の汚染防止処理を行って下さい。管が劣化し水道水が汚染されます。
 - 5.2 露出配管では、耐用熱により管温度が上昇し、耐水圧が低下します。また管内の水温が上がり急に開栓すると火傷の危険があります。管をカバーするなど耐熱処理を行ってください。(耐圧性能は20°Cで設計されています)
 - 5.3 通水試験を行う場合、管内の空気を完全に抜いてください。管が露出している場合、管を十分に冷却してから水圧試験を実施して下さい。管が熱い状態で水圧をかけると規定水圧以下で管が破裂することがあります。
 - 5.4 管(残材)などを廃棄するときは、法及び地方自治体の条例などに従ってください。